



田田田田川田  
代  
少  
少

十二月四日

(天)雨

今朝は廣池さんのお荷物が遠い所にあると不便なので、ねていらつりやる所のまくら本へうつす事になった。けれど私は、勤めさなくてすんだ。洗面のすんだ入る。いゆんに登校した。一時間目は、修業者と置刺のところがはいた。二時、三時は、高さと勾配をお習ひした。四時は、自習だった。

この間のはびきに、四日ごろ面會に行くを書いてあったので、窓より道を見ながら、今か。今かと待つてゐた。お天氣が悪いので心配だ。

午後から図書館にゐた。馬場さんのお祖様がきとくで長野へお歸りになる事になった。しばらくして、小林先生が、小川さん、馬場さんの荷物を持って寮へ歸りなさい。そして、廣池さん、夕食まで、遊んでいらつりやい。とおつちやうた。どうもへんだと思つたり、やはりお母様が来ていらつちやうた。うれしくて



うれしくて胸がわくわくしてしまった。十五分間ばりお話をしてお母様は、さういふ先生に、いさつのため、学校へいらつしやう。いくつ待っても、なかなか、歸へていらつしやう。いふので、立きたくなつてしまつた。夕食の時、お母様の持ていらつしやう。おみえんをいただいた。寮で、いっしょにねる事が出来ない。八時ごろ、旅館へいらつしやう。お母様は、何だかとても、おやせになつたやうな、氣がした。

十二月五日(水) 雨

今朝も、又、お日も運ひのため、西尾寮へ行つた。小さな大根も、運んだ。もう、おさつとも、そろそろ、なくなりさうだ。

一時は、地理だ、石田先生が、いらつしやう。まで、算數をしてゐた。すぐ、石田先生が、いらつしやう。日本の人口を、お習ひした。都市の人口は、さうと、つた。

地方の人口は、とても、ふえた。それを、市縣別に、うしてゐたら、ば、お母様が、いらつしやう。たので、お荷物を持つて、寮へ、つた。お文関のお部屋、屋のお火鉢にあつた。石黒さんの、お母様とお母様とお話した。おやうりと、ハリ、なさん、お皿などを、買つて、來て、いただいた。間もなく、十二時になつたので、学校へ行つた。

午後、お母様は、作業をなさる。た、お母様が、三時ごろ、おへりになる。ので、先生におゆるしを、いただいて、お、又寮へ、つた。す、お話したい事を、お話した。そのうちに、立川さんに、面會の方、が、いらつしやう。た。立川さんも、川さんも、面會に、つて、いらつしやう。た。時間、が、どんと、つて、行くので、ひや、ひや、して、しまつた。そのうちに、電報が、來て、廣池さんのお母様が、みえ、さういふ、に、いらつしやう。た。間もなく、四時、が、なつた。し、せ、と、涙が、出て、しまふ。お母様が、いつまで、ゐても、同じ事、だ、み、もう、學校へ、いらつしやう。た。お、あつて、でも、少し、でも、み、せ、を、引、いた、やう、だ、た、ら、す、ぐ、先



におつやいね。元氣がえはってね。おつやいね。外  
 たうを着せて下さった。しせん、に、泣けてしまった。お母様  
 も、やはりつらいのだらうと思つてなくまいとぐつと齒を  
 くひしはった。やさしく頭をなでてさやうならうとおつや  
 たので、いつとがまんしなみちにお別れた。六月にお別  
 れた時よりは悲しくなみちだ。あゝ、三時でみられるせい  
 みもしれない。何にしる。お母様にみれば、もれるとい  
 た以上はみせを引ぬきうにみればうらうら思つた。お床の中  
 で少し泣いてしまった。

### 十二月六日(木)晴時々雨

今日はお風呂をたてる事になった。お米運び、おいも運  
 び、大根運び、まき運びをする。私は、まきおみり、で、十  
 本ほど、西尾寮へおみりへて、石黒寮の風呂場へ入れた  
 一時間目は、國語だが、高田先生が、いつしやらないので  
 自習をしてゐた。二時は、國史だ。宮地先生が、いつしやつて  
 のびゆく日本の明治の王政復古の時色、又もつれ合  
 がおつた、と言ふ事を、お習ひした。三時まで國史は、

石黒さんに来て、いつしやつた。松村さんとおつやいね。小  
 父様に、まんたんをして、いたいた。今夜は、とても、  
 あたたかかった。

### 十二月八日(土) 雨

今日は、又、小雨が降つてゐた。

朝、お米運びで、山川さん、堀越さん、松平さんなどと  
 いっしょに、本田寮へ、ざるを持って行つた。雨が降つてゐるが、  
 かさが、させないし、重たいので、困つてしまつた。歸つてみ  
 る炊事場にある大根を、おし理した。葉は、切りは  
 なして、おみりに入れて、ゆでる。大根は、よいのだけ、とつて  
 ばけつに入れて、西尾寮に運んだ。その作業が、終つ  
 て、みる圖書館に行つた。一時は、國語だが、自習だつ  
 た。二時も、算數で自習だつた。國語も、算數も、  
 宿題があるので、一生懸命にやつた。三時には、地理で  
 石田先生が、すぐ、いつしやつた。地圖を書いて、それに  
 人口を書き入れる。縣別に、分けるのが、とても、むづ  
 かしくて、うちや、うちやになつてしまふ。四時は、音楽、



で又、自習だった。圖書館の二階は町のオマが、お使ひになるので、階下にゐた。宿題の算數をした。三時半には明日の狂言のふたいを作るので、六年生は作業をした。私は班長なので、寮の廣池さんの所へお野菜を持って行った。

十二月九日(日) 雪後雨

今日は十時から狂言の生生の野村さんがいらして狂言をやつて下さる事になった。私達はお客さんのすわる所にいざを敷いた。ほんたうは前田寮が今日から、お米運びだが出来ないので、又私達が今日は雪が降って来て、とてもつたて、いやだった。歸へて来るともうすぐ始まるので、寒くないやうに用意を、どこのへで並んではいった。狂言とはどんな物か、道を長くして待つてゐた。やがて夜しようをつけた方が出ていらした。おしまひみたいに、とてもお上手におやりになった。始め、末廣がり、ぶす。おたつ

むり。修羅ろく。などをやつて下さった。おしまひみたいなので、おかい様を思ひ出した。十二時半ごろ、終った。それからすぐにぶたいを片づけた。

午後からは、又寮にかへる事が出来なかつた。でも廣池さんのためだと思つてがまんした。十日ごろ、おへりになるさうだ。それまでがまんしよう。でもお裁縫室に火が少しあつたので、よかつた。算數をしてゐた。

夜寮にかへつてから廣池さんのお母様がおつくりになった。おさつの水あめと、こんべいとうをいただいた。

十二月十日(月) 晴時々雨曇

今日はもうお米運びでない。朝、急がなくてすむのでとてもよい。一時間目は自習だ。ところがやつとおちついて算數をし始めた。小林先生がいらして、「部六年はまき運びにあたり、あつてゐるんでせう。車で運びますから、皆いらつていとおつて。又、立つて外たうを着て外へ出た。少しは



かり雨が降る。車を二台引張り出して、雨の下を  
首をうちめながら西尾寮へ行った。雨がさあさあ  
と降って来た。かぜを引くといけないので、ヤミコへ小  
しの間はいつてみた。十たば運んで、車二つんで、外  
たうを並みづつて引いてかへった。

二時は國史だ。この前お習ひした、明治の初のも  
つれ合ひのつづきをした。この次の時間にしけんをし  
ますとおっしゃった。困ってしまふ。しかりやうう。

四時は國語だ。高田先生がおかへりになったので宿  
題を見た。修行者と置利のわけをかいやくした。  
午後からは圖書館のお二階を町の方がおつかひに  
なるので、階下にもた。寒くてとてもいやだった。けれど  
かみりの方が火鉢を持って来て下さったので、あたた  
まる事が出来た。四時ごろまでずっと圖工の宿題を  
考へたりは、書きを書いたりして時を過ぎした。

夜は又しふりに、いかのにたのかあった。おみそ汁三  
いのかだしがよき。こゝろなたいあつた。この二のい

しかった。

夜寮へかへつてから、又おひそのあめとぶだうたうをい  
ただいた。とてもあまかった。

今日は一日、只、翼が時々降って寒かった。

十二月十一日(火) 雪一雨

今日は第二日の授業だ。今日こそは何も遅はなくてよ  
い。朝から雪が降る。とてもつめたかった。

一時間目に、修行者と置利をこの間のつづきでした。

とても寒かったので、外たうを着てやった。途中で圖  
書館のちがさんがお二階にも火を持って来て下さ  
った。終つてからあたりに行った。とてもあたたかくて、お  
べんきようをしようと思つてもはなれる事が出来な  
い。二時、三時とも、時のたつのもあすれてあたって  
しまった。四時になったので、思ひきつて火鉢をはな  
れて地理をした。日本全体を書いてから、縣別に  
人口を、黒たまで書き入れた。

午後からは、四時半に、自動車から来て、東京へおかへり



になるのでお別れに寮へかへった。久しぶりにかへてうれしかった。おへると廣池さんは洋服を着てもう、おきていらした。おいしい、おにつけとおおにきりをいったいた。それから、未ひろがりや歌を唱うてお見せした。四時半ころ自動車かきで廣池さんとお別れした。皆、自動車の横にくっついてさやうなると手をふってお別れした。とてもつまらなかつた。お夕食がみえなより少しおくれた。

夜寮へかへてママが持っていくつったいり豆とみえキラムルなどをいただいた。パパかはおは書が来てママが無事に東京へおつきになつて陽子の生活を聞いて、三月までかえはるゝの事で安心したと書いてあったのでうれしかった。悠子ちゃん、勝郎ちゃんのかつ下も見事に出来たと書いてあった。

十二月十二日（水）雪 晴

今日は朝、目がさめると森先生が雪が降つてゐますよ。とおっしゃった。又、きのうの様に少しかなと思つてゐた。

かん布摩きつが終つて窓をあけて見た。すると五センチほどつもつてゐる。おあ、すごい。と思はず言つてしまった。急いでおさうかをすましてめいめいで登校した。ぶす／＼と雪の上を歩くと雪がへこむ。すれども、手も足も顔もとてもつめた。校門をくぐれば、四月十日に福光へ来た時の事が思ひ出される。

あ、い、おいしいおみゆをいただいた。体をあたためてから、図書館へ行った。お火鉢があつてもうみえなあたつていらした。一時は地理で都市の人口を調べた。それを今日の夕食の時までに、圖に表はして書いて出した。とのおっしゃった。さあ、もう火にあたつてゐる。どうではない。急いでやった。二時も三時も、四時は國語だ。國法と大慈恵の所へはいった。大石良雄のあた計の事だ。そのころは雪もやんで、青空に雪をかぶつた木が、そびえてとても美しかった。

午後からはおさうかをすませてみる。すぐ寮にかへ



た。丸鉢をしておいたをしてあたってゐると赤間さんのお母様がいらつしゃった。お入へりになつてゐる急いで地理をした。やうやく間にあった。夜はおいしーいごまあへと白米だった。

寮にかへる頃は又雪が降り出した。めんさういもをいただいた。

十二月十三日(木)

今日は久しぶりに、とてもよいお天気だ。けれどまだ、昨日の雪はたくさんのもつてゐる。

第四日の授業だ。一時間目は国語だ。寒いので、少し早めに始めた。国法と大慈悲をした。とても早くすすんで時間の終りには、もうおはつてしまった。

二時には国史だった。丸鉢に火をおこしたりあみ物をしたりした。三時はお裁縫だ。このごろあまりしなかつたので久しぶりだった。えりぐりをしあげた。今度はそでをつける。四時は自習だった。

雪が日光に、つされてとても美しい。

午後からおせうかをすませて、すぐに寮にかへった。森先生がいろいろやらなかつた。よせい理しておいたを作つてあつてゐた。本をよんでゐた。

夜はぶりのにたのとおにつけておいしかった。

十二月十四日(金) 雨

今日は雨が降つてゐる。みさは修せんに出してゐるのでカッパを着て行つた。行つてみると図書館は紫のまくが張つてあつて、つへさうもなかつた。朝食はごはんだった。それは石田先生高田先生村内先生米山先生が富山縣の縣ちやうへ、所用があつていらつやるのでおべんたうに困るので、御飯だった。朝食後、やはり先生が図書館はめんろん會で三日はみりつみへないから寮でやる事になった。よく氣をつけてさわがないやうにしながらといはれた。寮へかへつておいたを作つてはいり圖書の宿題をやつた。なみなみむづかしいが、やうやく考へつておせい書をした。配色がむづかしくて困つてゐるうちに、お晝になつてしまった。午後めうも寮に



へみへうて、つづきをしてゐた。多分、四つんをす  
夜のお食は、黒きんちゅうだ。た。いわしのいた  
ので、おいしかった。  
郡先生はまだみへうて、ろっしやらない。早へみへうて  
ろっしやらないかしら。

十二月十五日(五)

今日は、朝窓を開けると又雪がちらちら降つてゐ  
る。木にもセシ子ほどもつてゐる。おや、うきんで  
いて急いで登校した。まんとを着て、又圖書館は、  
つみへない十五日なので、体重そくていみある。てい  
學年みろなので、小使室にゐた。番になつたので、  
下着をぬいで、はかりの上にのつた。二十六・二きろだ  
た。一、二ふえた。始めてこんなになつたので、うれしく  
てたまらない。  
はみり終つてみろ、すぐに寮へみへうた。おこたを作  
て、算數をしてゐた。とてもあたたかくて、お晝に  
みへうた。行くのは、いやなくろゐた。

午後みろも、すぐに寮へみへうた。お火鉢にあたつて  
ゐて、小林先生がみへうて、ろっしやにげたので、とて  
も、しかろれてしまつた。もう今度みろは、ぜつたいに  
にげるやうなひけふな事は、しないやうにしよう  
と思つた。又算數をしてゐた。

夜もたのしく、七時半までおこたにあたつてゐた。

十二月十六日(旦晴)

今日は、休養日だ。とてもお天氣がよい。日曜日だ  
い、このごろ運動が、不足なので、体練教室で、九時半  
みろ運動をする事になつた。みけ足、体操、つな引  
などをした。とても、みろみろして、あたたかくなつた。  
でも手や足の先が、とてもつめたかつた。

それみろ、みろ、二班は、まきを西尾寮へみへうた。二班は、すぐにお洗濯をした。私達も、運び  
をはうてみろした。井戸水だが、とてもつめたい。や  
うやく洗へても、なみろし、ほれなくて困つてしまつた。  
干すために、寮へみへうた。干してみろ、みろみろした。



火鉢であたためた。十二時まで。明日の市  
午後からは圖書館のてらうん會を見た。見てみ  
る寮にみいった。おこたにあたりながら明日の國  
史のしけんのおしろへをした。  
夜寮へかへつてみろもした。石黒さんかろいだいた  
柿と干いも大豆などをいただいた。

十二月十七日(月) 雨

今日は雨が降る。雪も大分とけた。今日は  
お風呂をたてる。二班の方がお水をくみに寮へお  
みへりになった。火鉢が圖書館にあるのであ  
たそ待ってゐた。一時は國語だが三部六年がお  
米運びなのでおなかつたので四時にのびた。  
二時は國史。困るしけんた。宮地先生ががうく  
と戸を開けてはいつていらつしたのでびくとした  
うは、五ヶ條の御誓文と感想文で、二は、日本の開  
港について、三は、古事記傳・廢藩置縣、四は、明治  
維新の功勞者、五名と國學の發達に力を

くした人五名を書く。なかなかむづかしくて困った。  
四時に、國語をやった。母の力へはいつた。

午後、おさうちをすませてみろ寮にかへった。  
そして、お風呂にはいつた。私は、後の方なので、  
とてもお湯が少くぬるかつたので、ふたを半  
分ぐらゐして、たいていた。上つて見るとも  
う、四時四十分だったので急いで、學校へ行った。  
夜、もう國史のしけんがなくでほつとした。

今日は、堀先生がおみへりになつて、久しぶりに  
會ひした。まゐり日記です。



十二月十八日(火)

今朝も、又雪。風がとても強く、屋根につもつてぬ  
る雪が、強風に吹きおろされて、まるで吹雪の  
やうだ。つめたいうちを、二番で登校した。行くと  
四年女子が岩丸先生がおみへりになつたと言  
ふ。半年もお顔を見なかつたあの先生。お朝  
食の時に、こにこ顔ではいつていらつした。お



元氣なお顔で安心した。  
一時は國語だったけれど、三時にのびた。火鉢  
にあたって、編物をしてゐた。三時に、母の力の  
きのふのつづきをした。四時は又あたって、手をあ  
たためた。

午後六時は又、おやうかをすませた。後寮にか  
へった。おこたにはいつて、編物をしてゐた。

夜はきのふのつづきのハイ子な郡先生にま  
でいただった。

十二月十九日(水) 雪一晴

今日は又一段と雪がつもてゐた。

學校へ行くとき、ぼちやぶゆだった。朝食後に、さ  
う先生が今日、長ぐつをむぐつを待ってゐる人  
は、それぞれ、所へ品物を取りに行きま  
す。おつしやうた。四年以上行く。一部六年では、  
三人、長ぐつを持ってゐない方がいらつしやうた。  
九時半ごろ出發した。私達は西太美の倉庫

へ、ふきのしほづけとあらぐつを取りに行く。

始めのうちは、あたくし荷車で行くつもりだ  
たけれど、石黒さんのをが、様子が、それを、下さ  
たので、それに、をけを、八つのせて、引いた。それな  
んか、はいめて、なので、おもしろい。けれど、雪が、ばら  
ばらと吹きつけて、とてもいやだった。をが、様も、いっ  
しよに、来て、下さうた。目が、ちみちみして、いたい。

やうやくついたら、十一時十五分前だった。にもつを、  
そりに、つんで、み、役場の中へ、はいて、火鉢に、あたら  
せて、いた。あた、たまって、み、へった。神社の  
所で、とまって、を、か、様に、干柿を、いた。とても、お  
い、かつた。み、ん、ば、れ、く、の、鼓、身、には、げ、ま、さ、れ、て、つ、た  
のは、か、一、時、半、過、ぎ、だ、つ、た。小、使、室、で、お、食、事、を、い、た  
だ、い、て、み、る、寮、に、へ、つ、た。お、こ、た、に、は、い、つ、て、ゐ、た。

十二月廿十日(木) 晴

今日は朝食後、先生が五六年は大根のほぞん  
作業を、する。とおつしやうた。圖書館の二階へ、行



て火鉢に手足をあたたためてゐる。玄関前に集まった。長ぐつのある者はきのふ苦勞をしたから今日は女學校の前へもみを運ぶ。一回歩けば、多分よいでせう。ほの者は大根をし未するとおっしゃった。あきだはるに、一ぱいつめこんで、一ぺん運んだ。松達はそれですんだので、かへつて火鉢にあたつてゐた。

午後八時は、寮にかへつた。おこたにはいつてゐるといふ様だ、千柿を下つたので、いただいた。とてもあまくて、おいしかった。しばらくして、すみの配給があったので、又、長ぐつの者が取りに行った。夜は、わり豆をいただいた。

十二月二十一日(金)晴—雨

今日も又、朝食後、六年、五年は作業、三部六年は東太美へ野菜取り、二部一部の六年は、畠の大根抜き。五年はその大根を運ぶ事になった。

おみゆは今日から、こうりやんかはいった。始めてだ。

圃固いのでよくかんでいただいた。

九時半まで、ストーブにあたつてゐた。けれども、雨が少し降つて来たので、一時、晴れるまで中止といふ事になった。二時から、授業を始める事になった。たが、三部六年がゐないので、授業はしなかった。

午後、晴れたので、作業をする事になった。畠へ行くとき、雪は大分とけて、みぞにたまつてゐた。勢よくぬき始めたが、とてもつめた。手をふつては、又抜き、やうやく抜き終つて、ほとした。でも、小さいのは、みりであっけがない。荷車につんで、炊事場へ運んだ。それから、もう時間がないので、ストーブにあたつて、夕食を待った。

なつかしいおばあちゃんから、おたよりが来てうれしかった。

十二月二十二日(土)晴—霽

今日は、床屋へ行くので、めいぼの始めから八人行く用意をして行った。朝食後、行った。始め、五六人待



そめた。その間、葉書を書いたりあみものをして  
りしてゐた。やっていた。あとがすつとしてとて  
さむい。かへると地理をしてゐた。そのほみはずつと  
自習してゐた。

午後みちろは寮にかへった。おこたにあたてゐる  
と山川さんの小父様がつらうした。

夜は寮で、石黒さんにおみみんをいたただいた。  
あまくておいしみた。

十二月二十三日(日) 晴—雨—雪

今日は休養日。朝、お洗濯物がたまつてゐるので、  
洗面器とよごれカ物と自由道具を持つて、学校へ  
行った。めいぼの終りの方の人ばかり床屋へ行っ  
た。山川さんは寮におかへりになった。私達はお洗  
濯をしようと思つたけれど、雪が降つて来たので止  
めた。そして図書館のあーばんえつらん室のス  
トープにあたてゐた。そして本をよんだり、編物  
をしたりしてゐた。すると森先生がつらうして

お米とごみのまがらてゐるのを持っていらつて  
皆で、お米と豆をよつて下さいとおつしたので、よ  
した。とてもめんだうくさい。おみみんがすま  
み。午後みちろも二時ごろまではストープにあた  
てゐた。郡先生といしよに、寮にかへった。もう山  
川さんの小父様はおかへりになった。  
夕食は子供の忘年会で、さつまいも、餅飯と  
けんちん汁といわしのにたのがあった。  
寮へかへつておみみんとするめをいただいた。

十二月二十四日(月) 雪

今日は朝二番に、寮を出た。図書館の二階は、戦  
災者の何かがある。つかへない。一はんえつらん室は、三  
四年ぶるものでつかへない。八銀先生がお裁縫室が  
かへるやうに、といそ下つたので、六年はお裁縫室にお  
いた。とても寒くて外は雪が降つてゐる。小使さんにたの  
んで大きな鉢を入れて火をおこした。一時は國語だ  
が二十七日に、考査があるのでそのおけいこをした。それに



かみ床屋（うちうしや）た方もあるので、二時は國史だ。宮地先生はすぐにうちうしやした。廢藩置縣がははて西郷隆盛が國へ入って西南の役が、おこるといふ所だった。三時もつづいてやつてしまった。四時は理科で電信機と電鈴。

午後からは、ぼんえつらん室でストロブにあたってるた。本をよんでゐた。

夜はお肉のおにつけがあった。又雪が降って十五センチほどつもってる。

十二月二十五日（火）晴

今日はきのうの夜から降りつづいた雪が大分つもる。ぬて外は真白だ。窓を開けると冷やかな空氣がする。私の顔をつくもう。福光校の生徒達は冬休みでしんとしてゐる。寒いので炊事場から火をもろてお裁縫室で火をおこした。今日は入浴なので、私達はお水くみに行った。まさかしめてゐるので、午前中はかみ洗ひが出来なかった。お書食はお魚

の切目があつた。午後しばらくしてからいつも洗面する所で四人づつかみを洗った。今日はお湯がとてあたたかかった。

夕食は石黒さんのをか様おごちさうをして下さるといふので、一人學校のお食事をかゝるくいただいてから寮にかへった。しばらくお風呂へはいる人はいり番通りはいった。お食事の用意が出来たので、私達もはこんだ。もりつけていたでから、席についた。石黒さんのをか様もおりやうりを作って下さった小父さんも、あつ子ちゃんも、のり子ちゃんも、まさを見さんともんないしよに、まるくなつていた。おおさしみと大根とお魚のいたのと白米の御飯。とてもおいしかった。三ばい半いただいた。お食事をはり、よくお祈れいを申上げて、私はお風呂へはいった。高田先生がいらした。よく体をあたためてから床についた。とても氣持よかつた。今日は大正天皇祭、クリスマス、で休養だった。床にはいて考へた。石黒さんの小父様は、ほ



んたうにやさしい方だ。私達を、一生懸命、丈夫にして下さうと色々ごちそうをしてくださるのだからなるべくふとるやうに、病氣をしない様にしようと思った。

十月二十六日(水)晴

今日は窓をあけるとものすごいつらつらがさがつてゐて、いみにもひえびえとしてゐる。お洗濯物がとてもたくさんたまつてゐるので洗面器とよごれ物を持って行った。

図書館はまだよく机が並んでゐなかつた。一時間目は國語で七、鉄倉へはいった。二時は算数だった。等式をおなうひした。もう三時までのびてしまったので、四時はしなかつた。急いでお洗濯物を持って行った。もう水道はいっぱいだったので井戸水、端へ行った。太陽がサセなかをてらしてとてもあたたかい。井戸水もあたたかかつた。やがてお晝になったので急いでゆすいで行った。午後からは二班がおさうじをした。私は一人で福光橋の所へおしほを取りに行った。そのおへり、鐵道駐車が

自動車にのつた。ばこをふかしてゐるのを見た。おへりに西尾寮へ行って、ふきのしほづけを取って来た。それからお洗濯物を干しに寮におつて、それから又図書館のストロブにあたつてゐた。明日、國語のしけんがあるのをおけいこをした。

十二月二十七日(木)晴

今日は第三日の授業だ。二学期の最後だ。一時間目は地理だった。福光生、活といふ題で論文を書いた。しけんなので一生懸命書いた。夕食までに出す。二時もつづけてしまった。三時は國語だ。きのふあのおやくそくでする。きのふおけいこをしたので、少しは自信があるけれど、いしゃくばかりだ。私は大てい出来たやうだった。四時はやはり國語で、鉄倉のつづきをしてゐた。

午後からはストロブにあたつてゐた。地理もしたい國語もしたので本をよんだりあみ物をしたりしてゐた。



十二月二十八日(金) 雪

今日は朝、國語のしけんを返していった。もう授業お休みだ。午前中は先生方が成績會議なの。私達は圖書館の二階にゐた。私はよれ物がある。午後午前中、お洗濯をしてゐた。急いで、やった。そして、編物をしながら、火鉢にあたってゐた。午後は明日、お餅つきをするので、そのもち米を運んだ。前田寮へはこんだ。それから、一ぱん、えつらん室で、ストーブにあたって、編物をしてゐた。ジローちゃんの足袋、カバ、やと出来上つて、うれしかった。夜食は、おいしい、いか、大根のおにつけだった。寮へかへって、干柿を三つ、いただった。とても、雪が降つてゐる。明日は、又、つもるだろう。風が、とても吹いて、いな光が、して、すごかった。

十二月二十九日(土)

今日はお餅つきだ。先生方が、全部して下さるので、私達は圖書館にゐた。あたたかいストーブにあた

てゐた。外は、風が、びゅう／＼と吹き、雪が、さうさうと吹いて、まるで、吹雪のやうだった。ストーブのまはりの所に、いすを並べて、それにこしかけ、編物をしてゐた。今度は、カツローちゃんの、手袋をあんだ。お晝食の時には、つきたての、真白なお餅があつて、とても、おいしかった。

午後からも、圖書館にゐた。

夜、カツローちゃんの、手袋の片方が出来上つた。

十二月三十日(日) 雪

今日から、食糧運搬だ。組の半数は、お米運搬の。こりは、西尾寮へ、大根運搬に行った。私は、お米運搬の方で、本田寮へ行った。それから、圖書館のストーブにあたってゐた。

午後から、急にお風呂を、わすしたので、六人の人だけ、寮へ、お水汲みにおかへりになった。のこりの人は、ストーブにあたってゐた。

夕食後、急いで、寮へかへって、着がへを出した。そして



すぐに、お床を引いて、お玄關の火鉢にあたって  
 みながら、順番を待ってゐた。  
 お湯は、丁度よいかげんで、とてもよくあたたか  
 った。あがって、すぐに床にはいった。からだが、あたた  
 まってゐたので、とてもよくぬもれた。

十二月三十一日（月）雪

今日も、ものすごい雪だ。

今朝食後、先生から、今日の予定をうかがった。  
 午前中は、図書館の大さうが。五人の人はお米  
 はこびに、いっしょだった。郡先生のおさしづにしたが  
 へ、おさうがをした。はたきをかけ、すすをはらひ、  
 よくふいて、おさうがを、おへた。それから、すぐに、  
 寮にかへて、今度は寮の大さうがだ。たなの荷  
 物、本だなどをした。一年のほこりを全部  
 おとし、床間のすずり箱も、かばんも、せい理し  
 た。午後からは、ほんたうはまき運びだが、中止に  
 なったので、すぐに寮にかへり、くれのお仕事をした。

今日が、一年の最後だとは思へない。

もう明日は、十四。いつもは、お母様のおそばでお  
 歳を取るけど、今度は一人だ。

昭和二十年 日記終



紀元二千六  
百六十六年

昭和二十一年一月一日  
集團疎開日記

一月一日（火） 曇  
今朝起きるともうお正月だ。おめでたう／＼  
と言ひめはしなぶり起き上った。お當番はしなまっ  
た。朝のおさぶにの餅を運ぶために早く寮を  
出た。お裁縫室へはいつて皆のあつまるのを待った。  
やがて集まるおさぶにをいただいた。八つづつだ。おな  
かいっぱいになった。めづの子もあった。  
九時半から福光校といっしよに拜賀式をした。それ  
から図書館にぬた。羽つきもした。  
石黒さんのお父様も少し羽つきをしてから図書館にぬた。  
お父様にレコードをみけていただいた。とても久しぶ  
りに聞いてよかった。四時少し過ぎてからぐちさうな  
ので急いで運びに行った。ぐちさうは白米。に豆。お  
魚。お竹の子。さしみも大根のおにつけ。干柿だった。  
石黒さんの小父様もおまねきした。たくさんいた。  
だいてから寮にかへった。少し後から石黒の小父様  
と阿部先生が来ていてうらやまだった。机の上に大き

な豆餅が置いてあった。小父様が下さった。とて  
もおいしかった。それからおこたにはいつて年賀状  
を書いた。私に小包が来てみた。あけると福袋  
がはいてみた。途中でぬめれなく無事に一番に  
着いたのでよかった。  
夜は

長き夜の

遠のねむりの皆めざめ

波のり船の音のよきあな

といふ音を書いてまくらの下にいれておいた。かう  
するとよい初夢を見るさうだ。

一月二日（水） 晴

今日も朝、お當番以外の人はお餅を運ぶために  
先へ行った。おさぶにをいただいた。立川さんと菅  
村さんにすずりとふでを取って来ていただいた。お  
裁縫室で書めをした。私は旭日昇天の勢いとい  
ふのを書いた。やがてお晝になっちゃった。

鶏  
集



二日反省

森先生にな  
 ぜ寮にかへりた  
 いふと問はれた  
 ほろの寮がふ  
 るめにふへらな  
 い事  
 寮にかへると何だ  
 かお家へかへた  
 めうな気がする  
 お正月くうおは  
 けふもかへる様  
 な気がする  
 子供にけりて  
 寮に居るは  
 いけなうの  
 先生の前  
 あつた  
 けんやうな

午後めうは、お大根をはこびに西尾寮に行った。  
 かへつてから五人の方がお米運びに行った。その間私達  
 は羽つきをしてゐた。それから寮にかへれるのかと  
 思つたりかへれなくて、つまらなかつた。図書館にゐた  
 夜、寮にかへるとハ父様が待つていらつして、机の上に  
 すりりとごちさうが並んでゐた。すぐに席について  
 いただいた。とてもおにいにおにしめ。に豆おなます。  
 かずの子白米の御飯。昔東京でお正月にたいた。  
 ごちさうを思ひ出した。夜十時ごろ休んだ。

一月 三日(木) 晴のち雨

今日は三日日の最後のおやぶにをいただいてからあ  
 さうちをして、西尾寮へ山川さん、木村さん、瀬川さん、管  
 村さん、堀越さんなどで大根のつみかかねである方を  
 全部運んで来いといはれた。電桶を三つ持つて行つ  
 たが、それにはいり切らなかつたので、なはでぐるぐる  
 にしばつても、苦心をしてやうやく炊事場へはこ  
 び込んだ。堀越さんに、小包が二つ来てゐた。

それから午後、娯楽會のおけいこをお二階でし  
 た。  
 午後一時半からはいまるこころが福光の青年員  
 の方がお裁縫室をおつかひになるので追ひ出され  
 てしまった。そして下の音楽室でやる事になった。  
 寮のお子さんもお呼びした。  
 今回は一つおき位に先生のよきようもあつた。あ  
 正月でふんぱつしたのでとても面白かつた。私達は  
 踊廻よう歌をした。それがすんでからいよいよ  
 お待ちかねの福つりお客様も先生もおつりにな  
 った。私はだるまさんだつた。東京へのいいお土産が  
 出来た。ほかに、おもちゃ、おはぎやすみや、かずの子や  
 おいもや、わろぐつ、ごうりなどたくさんあつた。  
 夜、寮にかへつてから、おもちゃをいただいた。  
 一月 四日(金) 雪時々晴

今日は久しぶりに、雪が降つた。時々雪も降つた。  
 外の雪は昨夜の雨のためにほとんど消えた。



午後は圖書館で日記を書いた。

今日は、ママとお祖父様から、おはがきが来た。東京

でも、お正月のおぎふにだけは、いたただけた。と書いてあったので、よめたと思った。

一月五日 (土) 雪

今朝は井戸の出がわるいので、学校で洗面した。

今日は十時より堀先生のお話があった。この区ぬきの  
國民學校の先生をお呼びするので授業はなつた。  
お大根を運びに行った。もうかこつてある方のしな  
なつた。それより圖書館の二階にゐた。  
お書食は理科室だった。

午後六時は、やはり圖書館の「はんえつ」室にお  
た。又、雪が降つてゐる。

夜はお食事の時に  
卵のゴリーがあった。とても

おいしかった。

おしりから  
寮へかへると船曳さんの所へ福袋が来てゐた。又  
お餅をいただいた。ほんとに石黒さんのおめげだ。  
なるべくふとって御安心なさるやうにしよう。

一月六日(日)曇雪

今日みち食量りやう運びが終る。ほつとする。

羽根つき大會の日た九時三十分  
雨天体操場でやる。まづ始めに、少し運動をし  
た。体操場を五六回ほど歩いた。~~整~~した。とてもあ  
たたかくなった。それから、~~整~~理運動をし  
た。それから、中央になはをはって、それを越して  
つく。まづおけいこを二回した。それから、勝負をし  
た。余中で、警告防團の方が、この場所をおつゝひに  
なるので、仕方なしに延期する事になった。



た。しばらくの後に、お書食になった。

午後わらはやはリ圖書館にゐた。お洗濯物があるのでお洗濯をした。お湯がたくさんあるのでお湯でした。サすんで行くと圖書館の小父さん、ガシコードをわけて下さった。荒城の月やカッコウワルツや少女歌げきなどをわけていた。た。それなら編物をしてゐた。

一月七日(月)

花かゝる

糖

今日は七草の日だ。サ朝、おめゆに、お餅が二つはいた。午前中は、算数だけしおしなめた。それで、編物をした。うきんをあんだ。もうすぐにあが上るのでうれしい。午後めらは、お洗濯をした。お湯をわめてやった。もんべを洗ったので、とても色がおちた。

田代さんには小包が来た。林さんにも瀬川さんにも  
夜はごちさうだ。おはぎ。今日は特別に大豆の  
ついたのだった。それにおなます。お餅。干柿。

あつた。寮にゐるお餅をやっていた。百  
百人一首をおわりして八時までやつても、面  
白かった。

二月八日(火)晴

今朝も洗面は學校でした。  
午前中は、算數の角錐、圓錐と國語の「末廣お  
り」をした。一ばんよんでわけをしてゐる終った。

午後みろは圖書館の二階にみた。夕  
はれてゐた。日向でお家へ十八日に女高師の國民  
學校へ来て下さいとお知らせの葉書をかいた。  
火鉢にあたりながら先生に日記をおみせした。  
それみろ編物をした。  
夜食みろ十四人づつ席をかゝてすはった。千柿が又二  
つづつあった。

寮にわへつてゐる。又百人一首をした。先生は講座を  
を聞きに、学校にいらつした。



一月九日(水)雨

今日は実に物すごい風が吹いてゐる。

一時は國語で菊水の流れにはいった。とてもあざわ  
しやうだが面白い。

國史をした。去年のくれに、マッカーサーから國史  
は本を買ったよとしてはいけないと命令が出たの  
で本ではなしにする事になった。まづ昔、こうして  
してはいけないか。それから昔の神代の事、これは  
どうやら作った話らしいとおっしゃった。

午後めろは圖書館にゐた。松平さんが小包を  
取りにいらした。かへっていらしたのを見ると  
ものすごくなつてゐてぬかぬかしてゐた。それを見て  
陽子はぬかぬか。こはれず、ほんたうによかったと思  
つた。早くみんなそろつてあけたらと思ふ。

一月十日(木) 晴たり雪

今朝は學校へ行く。まだみんな来てゐない。  
火鉢にあたつてゐたがなみな来ないので先に

朝會をした。

午前中はわり合に晴天だったので、三部五六年は  
特別奉仕隊で、お味、そを取りに行った。

後にのこった一部二部の六年は、雪の福光とい  
ふ題で綴りを書いた。

午後めろ、ずっと圖書館にゐた。

夕食にはおなますと、みかんがあった。いつになく  
とても寒くて、たまらなかつた。

夜、寮で、香港めろ十二月三十一日に歸へていら  
した。飯島さんといふ方にお話をしていただいた。

一月十一日(金)

今日は一時に、菊水の流れをした。

算数は角錐と圓錐をした。

ほんとは今日、お風呂をたてるはずだったが明日  
にのびる事になった。

午後めろは圖書館の二階にゐた。夜郡先生の  
送別會をするので、プログラムを作つておけいこを



した。

お夕食の時 スキーの見本が来た。

寮にかへて先生の御用がすんでから送別會を始めた。私は二宮金次郎の御製を歌った。小父様にチテニプラをいただいた。西勝さんもいらつてチヨコレートをいただいた。とてもおつしわった。

一月十二日(土)雪

今日はお風呂の日だ。朝食がすんで皆水をくんだりまきを運んだりした。前のお家から水は運んだ。

それからは寮のおこたつにあつた。お晝食をいただくために、學校へ行く。本田寮の人が管村さんに小包が来てゐるといふので皆、よろこんだ。もうこれで皆、そろった。もう後はあけるばかりだ。

午後すぐに寮にかへて順々に、お風呂へはいった。ちようどよいお湯で、とても氣持がよかつた。皆はいり終ると森先生がいらつて

「これから福袋を上げます。だれのがだれの所に、行ってもいいですね。」

とおつした。私達は皆、「ハイ」と言つて手をあげた。すると目かくしをして、おこたつに伏せていらつた。おつしたので皆した。あちうこちうへ、福袋を置くやうな音がする。うれしくて、まだ、目かくしを取つてはいけなかつた。おこたつでも、おこたつでも、目かくしを取つても、よろしい。先生がおつしやるが、早いわけば、取つて自分のを見た。

「あー、わあ。うれしい。」

それは今まで、自分のお家からのが自分に来るとは思つてゐなかつたのだ。お家から来たのがちやんと自分の所にある。もううれしくて、しばらくは、おこたつを上げてみた。すぐにあけて、一度見ていた。

いた。四時十分過ぎまで食つてよいとおつした。千いも。みめん。ピーナツ。パン。えび。おこし。ごましほ。おさうと等、皆、お友達と取返へつこをして、いた。



食事はおカレーだった。

又寮に水へってお風呂をいただいた。ほんとに、こんなふうらしい事はない。なかなかお風呂がなかった。

一月十三日(日) 晴

今日は追羽根大会だ。この間のつづきから始めた。

六年の一等は中根さん、二等は管村さんだった。

それからほんとはレコードを聞かせていただくはずだった。

たが電休日のため、電気を通じないのでやめになった。

お裁縫室の火にあたっているとお湯がわいたので、お

み洗いをすす事になった。とてもお湯があつく、お持

かつた。少しの間、編物をしてゐるとやがて、書食になった。

午後からは雪中とほを歩いた。運動場の月山へ行ってス

キーを見た。何だかこはわった。

それからお裁縫室へ行って、日光をあびて日記を書いた。

福袋のお禮状を書いたりした。

一月十四日(月) 雨

今日は福袋とお洗濯物を持って行くのでとても

多い。

船曳さんは氣持が悪いので寮でねていらした。

一時間目は國語で母の教へのわけを習った。

國史は道鏡と百川の事についてお聞きした。

理科は何のお話でもして下さるので、野口英世

のお話を聞いていた。

お書食には福袋にはいつてみた。さけわんを

いただいた。

午後はお洗濯をした。皆が洗い終わって、

先生について福袋をいただいた。實にうれしい。

自分一人で自由にいただける事の出来るのはほん

たうにうれしい。

夜は久しぶりに豆餅をいただいた。

一月十八日

今日はスキーの講習がある。スキーをみつ

で行った。まず石田先生にスキーの名を教へて

いただいた。それから、お風呂を教へていただいた。



めった。いよいよ外へ出てすべる。新雪なのでとても  
 にはい。一たんころぶとずぶ／＼と手や雪の  
 中にありこんでしまふ。やうやく月山についてのぼり  
 うとしたがこはい。途中からすべったけれどころん  
 しまった。やがてお晝になったのでやめた。  
 午後からはずいぶん記録にあたってゐた。おもちも  
 いたにいた。

一月十九日

きのふ初つべりをしたスキーをみついで、学校へ  
 行った。

午前中授業をした。

午後からスキーをする。私はくつがはまらない  
 ので、図書館の石崎さんになほしていただいて  
 わらすべった。

一月二十日

今日は全校たんれんだ。朝おけ足をしてとてもあ  
 った。ぼろぼろとせなめがあったためくなった。体操をし

てからつな引をした。六年と五四三年とに別れ  
 てした。

すんでから図書館のをかきこんでレコードコンサートを  
 して下さるので、一般閲覧室へみんな行った。

戸口の所にびくびくおぼれてゐるをききこんで、コンサ  
 ートと書いてあった。くるみわり人形のレコードだっ  
 た。やがてお晝になったのでお福禮を行つてやめ  
 た。午後からはスキーをした。とてもよくすべれた。  
 夜はおたつでドーナツやパンをいただいた。

一月二十一日

今日はしとしと小雨が降つてゐた。

ほんたうはスキーをするはずだったが雨が降つてゐる  
 のでやめて授業をした。一時間目は二部がお米運  
 びで、ぬなかつたが算敷をした。物を動かす力もや  
 らなくてもよい用なものはほとんどはしてゐる。  
 算へはいつた。それから綴方で紫式部をした。私  
 は紫式部はよく知らないので困った。



お風呂なので、すぐに寮にへった。小父様が、イニード  
リニゴを持って来て下さった。でも今日は、バナツヤパ  
ニなどをいただいたので、明日、ただく事にした。  
馬場さん、ルックが送って来た。

一月二十三日

お朝食は、おさつのはいつたおみゆだった。

お授業は、国語と算数だけだった。

国語は、静寛院宮をおへた。算数は、がい算

午後、寮にへて、火鉢にあたってた。

おやつに、きりんのりんごをいただいた。とてもおいし  
かった。

夜は、おの先生方がおるすだった。お餅を五枚  
いただいた。

一月二十三日

今日は、スキーをみっいで行った。

宮地先生が、いっしやうないうちに、みけ足を先にして  
みた。

おみゆには、山川さんのみけをみけていただいた。  
おつゆもあった。

午前中は、スキーの講習をした。私達は、月山が  
うすべった。實に面白くて、やめられなかった。

それから、小倉百人一首をした。一べんしたが、重  
時間、おなみったので、お昼食をいただいた。

午後、おみゆした。源平に分れてしたり、とても面白  
かった。それから、寮にへった。小父様が、おきを書い  
て、いっしやうした。

夜は、おりんごがあった。

一月二十四日

今日は、休養日だ。

お朝食は、おみゆで、お洗濯をしてゐない  
人は、私は、図書館にみた。

木村さんのお母様が、面會に来て、いっしやうしたので  
びっくした。

午後、おみゆは、図書館のを、おさんに、レコードを



聞あせていただった。すんでゐる寮にみへって木村さんみりのおすしやあけものなどをいただった。夜千柿やお餅をいただった。

一月二十五日

今日は立野ヶ原へ行く。スキーをみついでおをけを持って行った。途中みり雪があるのでスキーにのそり行った。お晝までやってゐた。全校の一人のこらずすべれるやうになった。

お晝食は實においしかった。あつのおみそ汁があったみりだ。午後もした。みへりは雨が降そいやだった。寮にみへって見ると木村さんのお母様がお風呂をわめしておいて下さった。ありがたみった。

一月二十六日

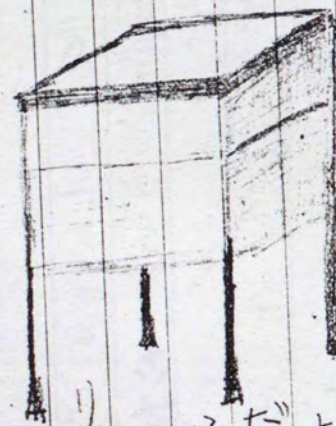
今日は休養日だ。一班はみり床屋へ行く。順番を待ってゐると陽子に面會にいらした。だめれおと思つたら、パパの會の谷村さんだった。

べつにおたのみする事もなかつた。すくおわめれしてしまつた。

床屋さんをしてもらつても頭がさむかつた。午後みりはみき洗つてゐるお洗濯をして皆そろつて寮にみへった。そして谷村さんのおみかんをいただった。絵を入れた。夜は三つお餅をいただった。

一月二十七日

今日は朝森先生がおめでたうございますと小父様についてゐたのでどうしたのかと思つたり、赤ちゃんもなつた。ほう月。んだ。ほん月。と思つた。



新しい時間お授業をした。後みりは寮で自由にいらしてゐた。

りで第一日の

片



一月二十八日

今日は又、みけ足だ。とてもあたたかくなっ  
た。

一時間目は国語だった。梅が香にはいった。  
算数は、ひし算をした。

それから、自習だった。ので、編物をしてるた。  
午後からは寮にへった。

おこたつを作って、火事をしてはいけなひので  
火鉢だけにした。皆、まはりで本をよん  
だり、編物をしたりした。おやつにするめを  
いったいだいた。

二夜は寮にへって、お餅やあめをいったいだいた。

明日は、小父様がお東京へおいでになるさうだ。

今度生まれた赤ちゃんはいったいだいた。

裕子ちゃんときまったさうだ。

一月二十九日

梅

一月三十日

今日も、又、食糧運搬だった。

今日も食糧運搬だった。お米を運搬しては、お米を  
大根を運搬して行く。始めお米だった。をけを

持て行く。と、はい、うなひので、金のはけつをもうえへ  
ん取りに行つた。やうやくお米を入れた。だいた

わう、う、六、ペン本、田、寮、か、う、運、搬、だ、い、た。

それから、大根だが、

野さん、お運、搬、で、下

のを言つてみ、ううと

おしやうはだ。一生

で、か、つて、来、て、図、書

に、火、鉢、に、あ、た、つ、て

ち、つ、と、お、米、を、運、搬、し、て、い、く、さ、う、だ。

た。働く。お、米、を、運、搬、し、て、い、く、さ、う、だ。

授業は、算数、の、国、語、だ、い、た。

午後、は、宿、題、の、綴、り、を、し、て、い、く、さ、う、だ。

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅



一時間目は算数だった。お私達は食糧運びで、  
おくらしてしまつた。今までのふく習をしたるば、  
もう一時間目は国語だ。雪國の春をした。  
二時間ばかり、火鉢に當つてゐると米山先生  
がいらつたので、お裁縫室をした。形紙を  
取つた。もうお晝ですといひに來たのでな  
るべく急いでかたづけした。お裁縫室へ行く  
もう、お食事は始まつてゐた。  
午後寮へかへて形紙を取つた。

一月三十一日

今日は最後の寒げの古。

朝とても寒かつた。でも晝間はあたたかいだらう。  
お米運びをすませてしまふと圖書館へ行つた。  
もう算数は始まつてゐた。私の席はとてもよく  
日があたつてゐた。

その次の時間はお裁縫だった。そでの形紙を

取つた。

お晝食、お裁縫

室へ行く

ととても、

く一日が當つ

てゐた。

午後からは

寮にみへつた。

ほんとに今日はめづらしいお天気だ。

久しぶり

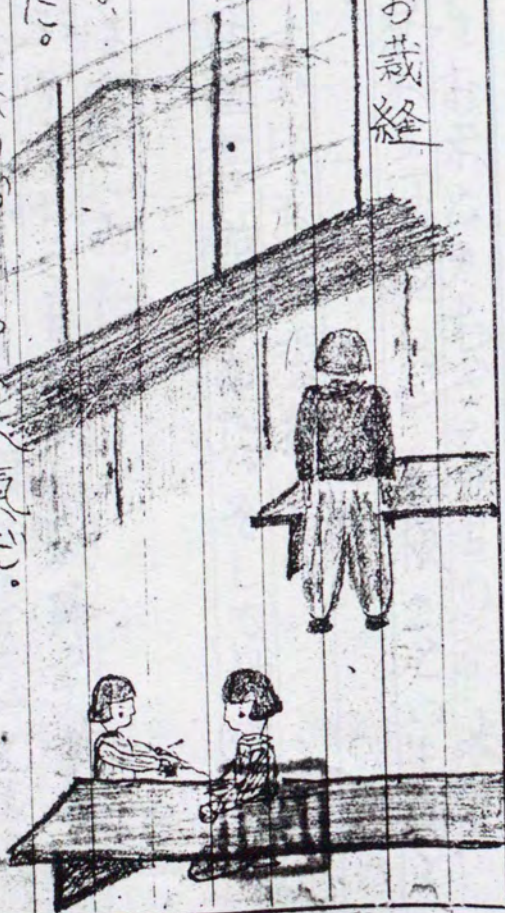
喜ぶ子供

日の下で。

二月一日

今日から二月、三月十日までに三十七日だ。

お朝食の時、先生から二月の行事とさうが分團  
を教へてくれた。二月はもう最後の一個月な  
ので、あんまり外へ出ないで福光の景色をよみ



梅

梅



あちはる事になった。

お米運びををはって寮に図書館へ行った。

授業は、一つもなかった。ずっと自習をしてゐた。

四時に、他郷の月々の音楽を少しした。

午後からすぐに寮にカヘリ水をくんで、すぐに

たき始めた。今日は、一人づつ火をたく事を

けいこしなからにいた。

床の上  
順番を待つ

お風呂みな

私達は図書館の階下のおさうかなので十分

前に寮を出て、おさうかをした。

夕食の傳達の時、バアソー長官の事について

お話があった。でもたうたえ、マッカアーササに

ところはれたさうだ。

夜はお風呂へはいってすぐに寝た。とても氣持

た。

二月二日 土

今日は、休養日だ。たいてい最後だと思はれる

米運び。今日は特別にたくさんあった。

本田寮からお米と、お米と明日の食米を  
運び、西尾寮からはおねぎ、大根さといもなど  
を運んだ。

かへってみらすが、お先習をした。

午前中は図書館にゐた。そして地理を

てみた。

午後からは寮にゐた。

外は久しぶりに、ちうちうと雪が降ってゐた。

夜、寮にみへって来ると、おねぎ、赤ちんを

れてかへっていらつしゃつてゐた。とても可愛

でうらやましい。

二月三日 月

今日は、節分の日だ。日曜なので全校運動だ。

九時十分ごろから始まった。おけ足、よいし、よい

し、と、聲をあげながら。その次は、とし体操だ。

今日は、いつも少しおけ足、うでたて、おせと、お手を上

げて、床の上を、ごろごろまわった。それから、寮對寮で

ちうちうと  
雪は降りつ  
と、もり空

閑



寒き夜に  
おきたを  
かこむ  
童達

ちろちろと  
雪は降る降る  
夜空に

綱引きをした。石黒寮はとてもつよかつたので  
おしまひに先生方とした。けれどもこれには困  
だ。ひとたまりもなく負けてしまった。

本当は体操の後で町を少し歩くはずだった  
が雪が降ってゐたので行かずに図書館にゐた。  
午後からは寮にゐて火鉢にゐた。とても寒  
夜はぐちさうだった。お赤飯を又しぶりに  
食べた。

今日の午後二部と三部の六年生が図書館の  
階上でぶん強をした様だった。が今度、  
いっしょにさせていただきたと思ふ。

二月四日

今日は立春だ。でも雪があつて春になるとは思  
へない。第二日の授業だった。一時は図工で手  
づけ袋の図案案をすすめる事になった。

二時は國語で雪國の春をおしまひまで  
した。後はずっと自習をしてゐた。

午後からはまき運搬なのでまきを運んだ。  
一束づつとても重かつた。

それからは寮に歸つた。火鉢だけでくらし  
てゐた。私は図工と地理の宿題をした。

夕食はお裁縫室が使はれてゐるので下の理  
科室でお食事をいただいた。

立春になつたら急に威づいたけれどとても  
も、日が長くなつたと思つた。でも大寒  
の二三日はとても寒いと思ふ。

二月五日

今日は一時は國語だ。雪國の春も終つて最後の  
國語のカへはいつた。今日はよんでたいの事を  
つみんだ。とても寒くて時間の終る度に火鉢にあたって  
ゐた。その次は理科で阿久沢先生に野口英世の  
お話を聞いた。

午後からは寮にへつた。私は図工の色をぬつた。  
すると石黒さんの小父様がおみへりになった。

25  
1750  
12  
33  
10



そして東京のお話をしていた。チョコレート、アメなどをいただいた。夜寮にみへつていただいた。木村さんに小包を来た。

二月六日

今日は朝お裁縫室へ行くと、興助先生がみへつていらした。堀先生もそして朝食後にお話があった。今度再入學する人は一部で十六年だった。

授業は算数と國語

をした。

午後めろは寮に

みへつた。

皆、東京へのおみや

やげのハンケチや東京へみへつた。

色々作った。そして

話があった。

うの事をやうやうし

國史、地理は

夕食の時に今度

なった。

もうぜつ對しない事に



聞きた

のびてしまった。四時にはみ洗いのために寮へみへつた。幸に、日びてり出したので今のうちに急いでして手をつこめば、あたたかいお湯も頭をつこめばひやりとする。廣池さんのお母様がよく洗ったらしい。たりして下さった。午後はすぐに寮へみへつた。私は班長なので色々先生のあつみをした。

この間、お母様が持っていたら、ピナツと、キメラを分けていた。ためづらくておかしかった。私は一番後でお風呂にはいる。途中で少し中止して、たいた。けれども時間がないのでぬるめた。おはいた。廣池さんは明日か明後日、養じやうのためにおみへりになす。又一月中頃ごろにいらやるさうだ。夜はおりんごを半分づついただいた。お床にはいって、お母様は無事にお着きになった。しらと心配した。

十二月七日(金)雨時々晴

今朝はとてまつめた。お母様がもってお歸へりにな



## 模

った勝郎ちゃんのかつ下は、もうはいたかしろと思つた。  
 おさうきんのかかりでとてもつめたかった。きのふ阿部  
 先生が明日は圖工があるからとあつたので、えの  
 具箱を持って行った。一時が圖工でぬけるとわるい  
 で大根運びは取止になつてお米だけ運んだ。久し  
 ぶりだ圖工をした。コンパスで書くも様を書く。そは三  
 學期中の自習の時に書き上げて出す。も様は中々む  
 づかしいので下書をしたり考へたり中々はみどちな  
 二時は算數で高さと勾配で度数のわり合をうつし  
 た。三時まで少しのびた。四時はお習字だけれど先生  
 がいらつしやらないので自習してゐた。私は圖工のつづ  
 きを考へた。

午後は体操の時間によ助先生に、風の中の子供  
 といふ本を讀んでいた。それが終つてから、圖書  
 館にゐた。階下のおさうかをした。  
 夜寮にかへつてから、廣池さんのお母様に、干柿の中  
 余のをいただいた。とてもあまくておいしかった。